

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全	29年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	港の安全性・信頼性の向上	成果	コスト			
事務事業名	防潮扉(改良)整備事業	延伸	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 工事課、港湾工事事務所、施設事務所
目的	対象(誰・何を)	防潮扉			事業 期間	平成20~令和元 年度
	意図(どういう 状態にしたいか)	高潮対策として海岸保全施設の改良等を行うことにより、海岸保全施設の機能を強化します。				
概要	整備場所:名古屋市港区潮風ふ頭、稲永ふ頭、大手ふ頭、築地・ガーデンふ頭、築地東ふ頭、大江ふ頭、昭和ふ頭、船見ふ頭、潮見ふ頭 内容・規模:防潮扉のアルミ化(軽量化)・壁体化(ランニングコストの低減) 全体工事費:5.1億円 事業手法:防災・安全交付金				根拠 法令等	社会資本整備重点 計画法 海岸保全基本計画
事業着手時点の 評価	海岸保全施設の改良等を行うことで、海岸保全施設の機能が維持され、背後地域の生命財産を守ることができます。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
30年度の実施予定	昭和ふ頭1扉、潮見ふ頭2扉の防潮扉のアルミ化及び大江ふ頭1扉の防潮扉の壁体化(廃止)を行います。				関連 シート	

2 DO(実施)

30年度に実施した 内容・結果	潮見ふ頭1扉の防潮扉のアルミ化及び大江ふ頭1扉の防潮扉の壁体化(廃止)を行いました。 なお、入札不調により昭和ふ頭1扉、潮見ふ頭1扉の防潮扉のアルミ化が出来ませんでした。					
コスト	単位	28年度	29年度	30年度	合計(平成20年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	65,631	29,280	21,356	420,795	防潮扉のアルミ化が平成28年度の5扉から、平成29年度は1扉に減少しました
人件費	千円	6,809	4,136	4,149	60,321	
合計	千円	72,440	33,416	25,505	481,116	

3 CHECK(検証)

指標名	28年度	29年度	30年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
防潮扉の改良数 (箇所) (進行管理型)	目標	49	54	57	57(累計)	防潮扉の改良(アルミ化)又は壁体化を行った箇所数です。 * 県整備水準の公表に伴う修正設計等による若干の遅れにより、平成27年度以降の目標値を見直しました。 * 平成30年度行政評価において、事業完了年度を延伸し、あわせて目標値を見直しました。	
	実績	49	52	54			
	事業進捗状況(30年度)		○ 順調		やや遅れ・遅れ		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	入札不調により目標値を下回るものの、令和元年度の事業完了に向け進捗しております。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	事業着手時に比べ必要性が低下していないか?	○					
	事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○ 背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高いと考えております。					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ 防潮扉の改良による機能強化は上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○ 防潮扉の改良については、閉鎖時間の短縮など防災面での確実性が向上することから、成果が得られていると考えております。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ コストが最小になるように精査して事業を進めています。					

4 ACTION(取組)

5年間の状況	課題	令和元年度以降の取組	継続
順調	防潮扉の改良は、工事期間中の通行制限などが港湾活動や企業活動に大きな影響を及ぼすことから、利用者調整を行いながら進めていく必要があります。	防潮扉の改良は、令和元年度の完了を目的に整備を推進していきます。	